

授 業 科 目 名	地域環境調整工学	担 当 教 員 名	辻原万規彦	履 修 年 次	3 年
<p>○ 概要及び到達目標</p> <p>環境調整の立場から、私達を取り囲む居住環境を如何に創り出していくかについて、考える。対象は、私達が生活している都市や地域の環境とし、関連する様々なテーマを取り上げて講義する。</p> <p>受講生の到達目標は、私達を取り囲む居住環境をより良くするためには、環境調整の立場からだけでも、数多くの問題を考える必要があることを理解し、自ら進んで問題に取り組もうとすることである。</p> <p>○ 履修上の注意</p> <p>関連する以下の講義とともに履修することが望ましい。</p> <p>人間環境健康原論，環境設備原論，環境設備システム学，住環境調整工学 講義の進め方の詳細や細かい注意事項などは，第1回目のガイダンスで説明する。</p> <p>○ 使用教材</p> <p>講義中に配布するプリント，スライド，ビデオなど</p> <p>○ 参考文献（書名、著者名、価格等）</p> <p>環境工学教科書研究会編著『環境工学教科書 第二版』（彰国社，3,675円） 建築設備学教科書研究会編著『建築設備学教科書 新訂版』（彰国社，3,780円） 福岡義隆著『都市の風水土 都市環境学入門』（朝倉書店，3,990円） 都市環境学教材編集委員会編『都市環境学』（森北出版，3,360円） その他，講義中に適宜紹介します。</p> <p>○ 単位認定の方法及び基準</p> <p>出席状況，適宜出題するレポートの結果を総合して，評価する。定期試験は行わない。出席点が約2～3割，レポートが約7～8割として評価する予定。</p> <p>○ 授業計画</p> <p>できるだけ多くの話題を提供することを目的として，主にスライドを使用し，以下のような内容の講義を行う。なお，配布プリントには，自学自習ができるよう数多くの資料や参考文献を掲載する予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域環境の調整とは？（1～2回） <p>地域環境調整とは，何かについて概説する。また，講義全体のガイダンスも兼ねる。</p> 2. 地域の気候（4～5回） <p>都市や周辺地域，農村地域などの地域の気候の実態について考える。都市気候とその仕組み，ヒートアイランド，気象の観測方法，クリマアトラスなどについて，講義し，地域の気候のあり方を考える。</p> 					

3. 地域の空気（1～2回）

地域の空気環境，特に大気汚染などについて地域の気候と関連させながら，講義し，考える。

4. 地域の音と振動（1～2回）

地域の騒音や振動問題を，空港や国道付近での実例を交えながら，講義し，考える。

5. 地域の光（1～2回）

光害や日照障害など，地域の光にかかわる問題を検討し，考える。

6. 地域の水（1～2回）

都市や地域における河川環境や水環境，親水空間などについて取り上げ，考える。

7. 地域の色（1～2回）

まちの色彩と照明など，対象をアーバンデザインにまで広げて，私達の周りの都市環境について，考える。